

===== メルマガ【実践留学道場】オリジナル小冊子 =====

『あなたも取れるTOEIC900点！』
～～～ 実践英語習得への最短コース ～～～

=====

(サンプル)

【第1回目 ～ イントロ】

既にこの【実践留学道場】をお読みの方はある程度ご存知かと思いますが、私は特に英語に特化した専門教育を受けたり、語学の特訓を受けたりしたことは無く、しかし、英語上達を目指している一凡人です。

ただ一つ読者の皆さんと少し異なるかも知れないことは、米国の大学院留学や海外駐在生活経験が多少あるということでしょう。

しかし、留学したり、海外に住んだからと言って英語はそんなに簡単に上達するものではないことは、既にこのコラムをお読みの皆さんは十分承知かと思えます。

(もし、知らない人がいれば、早速、私のメルマガ【実践留学道場】のバックナンバーをお読み下さい！)

その私が、他の英語上達を目指されている方、特に最近企業でも話題(ノルマ?)となっているTOEICで高得点を取得したいと願っている他の私と同じような境遇の方に、そのコツを伝授するというのが、このコラムの主旨です。

尚、既にTOEICで900点以上取得しており、更に950点もしくは満点を目指している方は、本コラムの主旨からは外れますので、以下、お読み頂く必要はありません。

そのような方は既に独自の学習法を確立されていると思います。ただし、そのような方でも自分の英語力にまだ不安があり、自由に会話ができる「実践英語力」の強化を目指されているのであれば、きっとこのコラムで参考になることが多々あると思います。是非、継続してお読み下さい。

○ TOEICとは?

TOEICとは既に皆さんご存知のように、Test of English for International Communicationの略であり、あえて日本語で言えば、「国際コミュニケーション英語能力テスト」とでもいえるでしょうか。

TOEICの詳細は、巷に数多くの書物が出ていますので、私はここでは少し異なった私なりのTOEICの定義の仕方をします。

つまり、自分の実践英語力(これには国際コミュニケーションの為の色々な能力も含みます)の評価尺度としてのTOEICの利用価値です。ひらたく言えば、正確に自分の実践英語力を測るためには、あえてTOEICに特化した勉強としてはダメです。正確な評価でなくなります。(それで本当の英語力がつく勉強であれば、OKですが。)

すなわち、TOEICの問題形式への慣れ、不慣れは別として、TOEICに特化した勉強ではなく、他の方法にてほんとうの実践英語力をつけ、その結果としてTOEICの点数が向上しなければならないのです。

このところを取り違えている人が大勢いますので、あえて付け加えます。良く認識願います。

(巷に、TOEIC900点以上を取得していても、あまり実践で役に立たなかったり、自分自身でもまぐれで900点取れた、と言っている人がいるのは本当に残念なことです。本当の実力で、TOEIC900点以上を取って頂きたいものです。)

○ TOEICを受験する意義は?

最近、日本の企業ではTOEIC、TOEICと言われ、実践英語力よりもTOEICの点数が一人歩きしている感があります。

確かに個人の英語力を評価する尺度としてTOEICは優れていると思います。(もともと、留学用のテストであるTOEFLを作ったETSが日本人向けに考えたテストです。)

しかし、TOEICを受験する本当の意義とは何でしょうか?会社で強制されて受験したり、これに特

化した勉強をして高得点をはじき出すために受験するモノでは無いはずですが。本来の主旨は、上にも書きましたように、ビジネスの現場で役に立つ「実践英語力」がどのくらい身についているかを試すテストであるべきです。

このような観点から、私はあえて、このコラムを読まれている皆さんに、このTOEICで真の高得点をとっていただく方法を伝授します。

それは、そんなに簡単ではありませんが、やれば必ずできる地道な方法です。実際、私自身もそうして地道に英語のトレーニング（勉強ではありません、トレーニングです！）を続け、TOEICでAランクといわれる860点をかるく突破でき、更に去年900点の大台に突入すると共に、自己最高点を何度も更新できましたし、これまで私の教えを受けた人で、地道に頑張っ^てTOEICの点数を大幅にのばした人も大勢います。

その秘策を、今後このコラムの中で公開して行きましょう！

【第2回目 ～ スコアアップの秘訣】

皆さんは「TOEIC TEST 英語学習ダイアリー」という本（ハンドブック形式）があるのを、ご存知でしょうか？

これは、TOEIC関連で日本全国あちこちで講演をされていて有名な、あの千田潤一氏監修、鹿野晴夫氏著の英語学習の為にトレーニングブックのようなものです。

構成は、TOEICの解説や英語学習の仕方が前半のほうに少しあり、あとは毎日の英語学習の時間を記録したり、TOEIC受験記録を記入する手帳のようなスペースがほとんどです。

今回、私がこの「TOEIC TEST 英語学習ダイアリー」を今回ご紹介したのは、これを使えば英語が上達し、TOEICの点数もあがるということではありません。

しかし、このダイアリーの中にも書かれていますように、英語上達の秘訣はトレーニングにあるということを知って貰いたかったからです。

そうです、たとえ内容は違っても、マラソンと同じような地道なトレーニングが大切ということです。そして、このトレーニングを手助けし、モチベーション、意欲を継続させるために、このダイアリーが活用できるのです。

良く「日本人は、文法や読み書きは得意だが、リスニングはダメ」などと言われますが、これは私の知る限りではほとんど当てはまらないと思います。（実際、TOEICの点数分析結果を見ても、日本人は概してリーディングセクションの点数のほうが悪いという結果が出ています。）

そして、私のまわりを見渡しても、さっと英文を読ませて正しく理解できたり、正しい文法でキチンとした英文を書ける人はほとんどいません。

これは、何も彼らが英語を勉強していなかったということではありません。確かに習ったのですが、忘れてしまったり、トレーニング不足により自分の身につけていなかったり、応用できないだけなのです。

そう言った意味でも、TOEICスコアアップの真の秘訣は、「英語の地道なトレーニング」にあると言えるでしょう。

上記のダイアリーにも書かれています。英語のトレーニング時間とTOEICの点数アップとは相関関係があります。確かにあります。

私自身も実際感じています。しかし、そこに書かれている時間は、びっくりするくらい莫大な時間です。

例えば、現在600点の人700点到達するまでに350時間、700点の人が800点に到達するまでの時間は更に400時間と書かれており、しかも、自己学習ではその2倍の時間が目安となっています。

本当にこれだけの時間が必要なのでしょうか？

これを聞くだけで、「こんなに自分は英語の勉強は出来ない、もうダメだ」と、投げやりになってしまう人がきっと多いでしょう。確かにそれもその筈です。例えば、現在600点の人がAランクである860点まで自己学習によって点数を上げようとする、何と2000時間以上ものトレーニングが必要となるのですから。

（この2000時間というのは、これまで我々が中学、高校と6年間で学んできた英語の授業の総合計時間以上にもなります！）

しかし、諦めないで下さい。もっと短時間のトレーニングで効果を上げた人が大勢いますし、現に私もそれほど莫大なトレーニングの時間をかけずに「実践英語力」を身につけ、結果としてTOEICの点数も上がっているのです。
(私は最近、あまり英語に特化したトレーニングはしていませんが、以前受験しましたTOEICの自己最高点は、935点でした。)

では、ここで先ず実例として、私のケースをご紹介します。

(以下、続きは、本書でお読みください。)